

12

①

一
九
二
九
年
七
月
二
十
七
日
ノ
俘
虜
待
遇
條
約
準
用
ノ
意
義
及
範
圍
ノ
檢
討

俘
虜
關
係
調
査
部

I

1966

一 前 言

本冊子ハ一九二九年ノ俘虜待遇條約ノ適用ニ關シ帝國政府ヨリ關係交戰國ヘ回答セシ事項ヲ國際法學者カ國際法的ニ檢討セシモノヲ收録シタルモノナリ

昭和二十年十二月二十五日

俘虜關係調査部

2

1967

一 準用ノ意義及範圍ニ就テ

1 信夫淳平博士

帝國政府ハ一九二九年の俘虜待遇條約ヲ準用スヘキ旨ヲ回答シタルカ、ソノ回答ノ原文ヲ一閱スルニ非スンハ以テ政府ノ意旨シタル準用ノ語義ヲ正確ニ判斷シ難シ。元來法律用語トシテノ準用ノ語ニハ、少クモ二様ノ遣ヒ方アリ。一ハ法律ニ規定ナキ事項ニ對シ規定アル條項ヲ適用スル類推準用ニシテ、例ヘハ刑罰上ノ容疑者ニ對スル訊問ハ被告ニ對スル訊問ノ規定ヲ準用スルカ如シ(刑罰訴訟法第一三九條)。二ハ規定ノ條項ヲ適用スルニ方リ多少ノ變更ヲ加ヘテ適用スル場合ノ準用ナリトス。コノ後者ヲ歐語ニテハ *Application mutatis mutandis* (*application with necessary changes*) ト稱ス。察スルニ政府ノ回答ニハ、コノ語力用ヒラレテアルニ非サルカ。即チ條約ノ原條項ヲ適用スルヲ本則トスルモ、適用シ難キ特殊事由アル特定條項ニ關シテハ、必要ナル變更ヲ加ヘテ之ヲ適用ストル意味ニ於ケル準用ヲ指ス。例ヘハ俘虜待遇條約第十六條ノ保護

1968

國代表者ノ俘虜留置所ノ無例外ノ到訪及ヒ無立會人ニテノ俘虜トノ會
談ニ關スル規定ハ、帝國政府ニ於テ防諜ノ必要上ソノ儘ニ適用シ難
シト認ムルト假定シ、到訪ニ或制限ヲ附シ、又會談ニ監督吏員ヲ立
會ハシムルコトニ變更シテ之ヲ適用スルカ如キハ是レナリ。故ニ原
條項ノ適用ハ本則ニシテ、準用ハ例外ナリ。例外ナルカ故ニ準用專
項ハ之ヲ嚴且狹ニ解スヘク、之ヲ濫用セサルノ注意ヲ要ス。隨ツテ
適用シ難キ特殊ノ專田ハ之ヲ明示スヘク、單ニ原條約中我方ノ氣ニ
入レル條項ハ採用シ、氣ニ入ラサル條項ハ採用セストイフカ如キ、
即チ本則ト例外トヲ同列視シテ取扱スルカ如キハ、準用ノ意味ニ背
馳スト思考ス。若シ新カク意向ナリシトセハ、初メヨリ俘虜待遇條
約ヲ準用スト云ハスシテ、本條約ハ帝國政府之ヲ裁奪セサルモノナ
ルカ故ニ全然ソノ拘束ヲ受ケス、但シ本條約中適當ト認ムル條項ハ、
帝國政府ハ本條約ノ拘束關係トハ離レ、別ニ任意之ヲ採擇シテ實施ス
ヘシトノ意ヲ以テ回答シタル方カ勝リシナルヘシ。當時政府當局者
カソコ迄ノ研究ヲ周密ニ盡シタル上ニテ準用云々ノ回答ヲ發シタルモ

1969

ノナリヤ否ヤ、多少ノ疑ナキ能ハズ、

(第一問ノ四)。戦時重罪違反者ハ最初ヨリ俘虜トシテ待遇ヲ爲サ
スシテ可ナルヤ)

コノ命題ニアル待遇ハ取扱ノ意ナルハ、コノ兩語ハ世人往々混用
ス。然レトモ取扱ハ *treatment* ナルニ對シ待遇ハ *Warum* (又ハ

Kind) *Treatment* ニシテ、兩者ノ間ニ厚薄ノ差アラサ。

一九二九年ノ *Come n'pion Kela tise on Treatment des Prisonniers*

ハ帝國政府ノ官譯文ニ於テ「俘虜ノ待遇ニ關スル……條約」ト題シテ
アルカ故ニ、拙者モ便宜上「俘虜待遇條約」ト稱呼スルモ、正確ニ
云ヘハ「俘虜ノ取扱……條約」ト譯スルヲ當レリトス。

右ハ文字ノ末節ニ係ル支葉語トシテ、本件ハ考慮ニ値スル一問
題ナリト思考ス。ソノ改ハ、着シ最初^与俘虜トシテ取扱フモノトスレハ
戦律犯人ニシテモ身分^与俘虜ナルカ故ニ、捕獲國ハ法規慣例ノ命ス
ル取扱ヲ爲シ、處罰スルニシテモ俘虜待遇條約ノ加入國、又ハ加入
國ニ非サルモノノ準用國ニアリテハ、特定ノ手續ヲ盡シタル上ノコト

1970

トナルカ（例へハ裁判ニハ辯護人ノ帶同ヲ許スカ如キ、上訴權ヲ認ムルカ如キ）同條約第六一條以下）、之ニ反シ俘虜トシテ取扱ハサルモノトスレハ、捕獲國ハ新カル規定ニ拘泥セス、任意ノ手續ト方法ニテ之ヲ處分スルヲ得トノ論モ立ツヘシ。勿論對戰國ノ權内ニ陷レル敵人ハ、俘虜ノ名ヲ附スヘキモノナルト否トヲ問ハス、又條約ノ有無ニ拘ラス、又該條約ノ加入國タルト否トヲ論セス、之ヲ取扱フニ人道ヲ以テスヘキハ國際ノ通義ナルカ故ニ勝手氣儘ニ處分スルナトノ亂暴ハ許サレサルノ理ナルカ、技術的ニハ辯論シ得ラレサルニ非サルヘシ

其國ノ一九三六年改定ノ軍事法提要ニハ

第五十七節ニ俘虜ト爲スヲ得ル者ヲ列舉シ、ソノ首號ニ「軍隊ノ構成員、但シ戰爭犯罪人ヲ除ク」ト掲記ス。故ニ戰律犯ニ問ハルル者ハ初メヨリ俘虜トセス、隨ツテ俘虜トシテノ取扱ヲ爲ササラントスレハ爲ササルモ可ナリカ如キ規定ナリトス。

然レトモ身見ニテハ、俘虜ノ身分ハ彼方敵ノ政府ノ權内ニ陷ルト同時ニ發生シ、タメニ俘虜トナレルニ至レル事、前又ハ事後ニ於テ特定ノ

1971

事由ニ因リ人道的取扱ノ一般の原則ヨリ除外サルコトアルモ、ソハ取扱上ノ差異ナルニ止マリ、俘虜タルノ身分ニ於テハ變リナキモノト信ス。假ニ戰律犯ヲ爲セル敵ハ對戰國政府ノ權内ニ陥ル場合ニハ俘虜ニ非ストスレハ、ソレカ果シテ戰律犯人ナルヤ否ヤハ査問シテ見タ上ナラテハ判明セサルカ故ニ、査問ノ結果戰律犯人ニ非ストノコトカ立證セラルル迄ハ俘虜ノ取扱ヲ爲ササルモ可ナリト云ヘルヘク、極端ニ云ヘハ、直チニ之ヲ殺スモ妨ケストイフ論ニモナルヘク、ソハ人道上面白カサル論ニ非サルカ。俘虜ハ敵ノ權内ニ陥レルソノ瞬間ニ於テ俘虜タルモノニシテ、捕獲國カ俘虜タルニ至レル事前行爲ヲ審理シ、之ニ俘虜タルノ取扱ヲナス事ヲ決シタル上ニテ俘虜トナルモノニハ非ズ、俘虜ハ人道的取扱ヲ受クルモノタルニ於テ始メテ俘虜タルニ非スシテ、俘虜タルノ身分ニ於テ始メテ俘虜タルモノナリトス。俘虜カ戰律犯人ナルカ故ニ之ニ對スル人道的取扱ニ取捨ヲ加ヘ、法ニ導ツテ之ヲ處分スレハトテ、之ニ依リ俘虜タルノ身分ソノモノカ當然綠奪セララルモノト見ルハ、或取扱ノ依ツテ生スル基本的身分ト、身分アルカ故ニ之ニ對シ爲ス所ノ（及ヒ爲スヘキ筈ナルモ特定ノ

ノ事由ニ因リ爲ササル所ノ一或取扱トヲ混同スルモノニシテ、正鶴ノ見
ニ非スト應ス

2 水垣進講師

本條約ハ米英華ノ諸國ハ批准シアルモ、日本ハ未批准ナレハ、形式的ニ
ハ今回ノ戰爭ニハ適用サレナイ。但シ米國ノ照會ニ對シ、日本外務省ハ
Mutatis mutandis ノ條件ノ下ニ之ヲ準用スル旨ノ回答ヲ發シ居
レリ。

茲ニ於テ此ノ *mutatis mutandis* ノ解釋ハ俘虜取扱問題ノ國際法違反ナ
リヤ否ヤヲ決定スル基準トナルモノテアル。

一九〇七年ノ陸戰法規及ヒ在來ノ國際慣例ニ比較シテ本條約ハ更ニ俘虜
取扱ノ人道性ヲ強調セル點ニ其ノ特質ヲ見出スノテアル。然シ其ノ人道性
ノ問題ハ戰時國際法ノ基本的原則タル作戰上ノ必要ヲ無視シテ迄モ主張
スルモノニ非スト考ヘル可キテアル。茲ニ於テモ此ノ兩者ハ合理的基礎
ニ立チテ融合シアルモノト考ヘル。

日本ハ固ヨリ俘虜ノ取扱ノ人道性ヲ否認スルモノテナイ事ハ當然テアル

1973

カ、然シ日本ノ遂行スル作戰上ノ必要ハ、此ノ人道的取扱ノ一ツノ制限トナルノテアル。從ツテ回答ノ *mutatis mutandis* モ亦作戰上支障ナキ限りニ於テ、本條約ノ内容ヲ準用スルノ意義ニ解スヘキテアル勿論、歐米ノ如キ交通機關ノ發達、文化的諸施設ノ完備セル地域カ、戰場ニナル場合、東亞殊ニ南方諸地域ノ如キ未開ノ地カ戰場ニナル場合トハ、俘虜ノ實際的取扱ニ際シテ、甚シク異ナラサルヲ得ナイ事ハ明ラカテアル。

一九二九年條約以上ノ歐米の諸地域ノ環境ヲ主トシテ考慮ニ入レタリトスレハ、今回ノ戰爭ヘノ之ヲ準用、甚シク困難ナル可シ。從ツテ此ノ點モ又本條約適用ニ於ケル靈的制限トシテノ主要ナル要素ヲナスト認メラル可ナルカ、此ノ事モ亦形式的ハ廣義ノ「作戰遂行上ノ必要」ノ由ニ包含スルニ不用ナタル可シ。

1974

二千九百二十九年七月二十七日ノ俘虜ノ待遇ニ關スル條約準用問題ノ關

係文書

○俘虜ノ待遇ニ關スル英、米等各國政府ヨリノ照會ノ件（昭一六二、二三）
（陸密一八九）

陸軍次官ヨリ外務次官宛回答

昭和十七年一月十三日附錄三普通合第五二號、第五三號及昭和十七年一月十六日附同第八五號ヲ以テ照會ニ依ル首選ノ件ニ關スル當方ノ意見左記ノ通函答ス

左記

一 第五二號ニ關シ

イ 尋常俘虜條約ノ御批權アラセラレザリシモノナルニ鑑ミ右條約ノ旨

守ヲ聲明シ得サルモ俘虜待遇上之ニ準シテ措置スルコトニハ其旨無

キ旨無害スルニ止ムルヲ適當トスヘシ

ロ 尋常ノ食糧及衣類ノ補給ニ關シテハ俘虜ノ國民的、民族的習慣ヲ注

意考慮スルコトニ與存ナシ

二 第五三號及第八五號ニ關シ

前項意見ニ準ス

II

「イギリス」、「カナダ」、「オーストラリア」及「ニュージーランド」各政府ノ千九百二十九年七月二十七日ノ停務ノ待選ニ關スル件 (照一七六一三)

外務次官ヨリ海軍次官宛照會

本作ニ關シ在京「アルゼンティン」國代理大使ヨリ別紙書ノ通申達シタルニ付右茲ニ送付ス貴見何分ノ儀至急御同示相成度シ

ニ關シ

「イギリス」、「カナダ」、「オーストラリア」及「ニュージーランド」各政府ノ千九百二十九年七月二十七日ノ國際條約條約遵守ニ關スル千九百四十二年一月三日附屬條約外務大臣宛在京「アルゼンティン」國代理大使書翰(假譯)

此書翰上致在陳者本使ハ本國政府ノ訓令ニ基キ「イギリス」、「カナダ」、「オーストラリア」及「ニュージーランド」各政府カ日本ニ對シ千九百二十九年七月二十七日「ジュネーブ」ニ於テ署名セラレタル停務

1976

ノ待遇ニ關スル國際條約ノ條項ヲ遵守スルコトヲ聲明セル旨貴大臣ニ送
シ御通報申上クルノ光榮ト有シ候

尙本使ハ貴大臣ヲ介シテ日本帝國政府方同様ノ聲明ヲ行フ意圖アリヤ否
ヤニ付御實際申上クル様本國政府ヨリ訓令ニ接シ候

本件ニ關スル貴大臣ノ御配慮ニ對シ深謝スルト共ニ茲ニ本使ハ附下ニ同
ツテ深甚ノ敬意ヲ表シ候

(來翰寫略)

東郷外務大臣宛千九百四十二年一月三日附在京「アル

ゼンチン」代逕大使書翰ニ關スル千九百四十二年一

月三日附外務大臣宛同大使書翰(假譯)

以書翰書上譯後讀者千九百二十九年七月二七日「ジュネーブ」ニ於テ
署名セラレタル停廢ノ待遇ニ關スル國際條約ノ條項「イギリス」、「
カナダ」、「オーストラリア」及「ニュージーランド」各政府カ日本ニ
對シ遵守スルノ件ニ關シ本月三日附貴大臣宛書翰ニ關シ「イギリス」政

府ハ双方ノ停戦ノ食糧及衣類ノ供給ニ關スル同條約第十一條及第十二條ノ適用ニ關シ停戦ノ國民的、民族的習俗ヲ考慮スルコトヲ提案セル旨御通報申上クルノ光榮ヲ有シ侍

本件通告ニ對スル貴大臣ノ御配慮ニ對シ茲メ深謝スルト共ニ本使ハ閣下ニ向ツテ深甚ノ敬意ヲ表シ候

(來駐書略)

敬 具

○千九百二十九年七月二十七日ノ停戦ノ待遇ニ關スル國際條約及

一 赤十字條約條項恪守ニ關シ米皇政府申入傳達ニ關スル件

(昭一七、二、一三)
條三普通言五三)

外務次官ヨリ陸軍次官宛照會

本件ニ關シ在京瑞西副公使ヨリ別紙寫ノ通申越シタルニ付右茲ニ送付ス
貴見御回示相成度シ

別紙寫

千九百二十九年七月二十七日ノ停戦ノ待遇ニ關スル國際條

1978

約及赤十字條約條項恪守ニ關スル米國政府申入ニ關ス
ル千九百四十一年十二月二十七日附外務大臣宛在京瑞

西國公使發來翰（假譯）

以醫務醫士致候陳者本國政府ノ勅令ニ基キ本使ハ今般「アメリカ」合衆
國政府カ日本國政府ニ對シ左ノ通り傳達方希望シ居ル旨閣下ニ對シ傳達
致申上クル光榮ヲ有シ候

「アメリカ」合衆國政府ハ千九百二十九年七月二十七日壽府ニ於テ締結
セラレタル停戰條約並ニ壽府赤十字條約ノ締約國トシテ右條約ノ各
項ヲ適用スルノ意思ヲ有シ尙合衆國政府ハ壽府停戰條約ヲ遵守セラルヘ
キ如何ナル敵國非戰國員ニモ右條約ノ條項カ適用セラレ得ヘキ範圍ニ於
テ適用スルノ意思ヲ有シ候

日本國政府ハ右兩條約ノ署名國ナルモ壽府停戰條約ヲ批准シ居ラサルヲ
了解致居候

然乍ラ合衆國政府ハ日本國政府カ右兩條約ノ條項ヲ彼上ノ意味ニ於テ相
互的ニ適用セラレンコトヲ希望致候

1979

合衆國政府ハ本件ニ關シ日本國政府ノ意嚮表明ニ接シ度候
本件ニ關スル日本國政府ノ意嚮照會券々本使ハ茲ニ閣下ニ向ツテ深甚ナ
ル敬意ヲ表シ候

敬具

(來翰寫略)

○日本及爾阿聯邦間ニ於ケル千九百二十九年ノ停廢待遇ニ關

スル條約適用ニ關スル件 (語一六、六
條三普適合八五)

外務次官ヨリ陸軍次官宛照會

本件ニ關シ在京瑞西國公使ヨリ別紙ノ邊申越シタルヲ以テ右送付ス別添
同國公使來翰寫及同譯文ニテ御知悉ノ上貴見何分ノ儀御回示相成度シ

別紙寫

東郷外務大臣宛在京瑞西國公使發一月十二日附來翰

(FHEI71101) (假譯)

以書翰啓上致候陳者本使ハ今般本國政府ノ訓電ニ基キ左ノ如キ内容ノ南
阿聯邦政府ヨリ日本帝國政府宛ノ通告文ヲ閣下ニ傳達スルノ光榮ヲ有シ候

南阿聯邦政府ハ千九百二十九年七月二十七日議府ニ於テ締結セラ
レタル停廢ノ待遇ニ關スル國際條約ノ規定ヲ日本ニ對スル限リ遵守シ
居レルニ付日本政府ニ於テモ同様ノ處理ヲ執ルノ保證ヲ與ヘラレンコ
トヲ要請ス尙南阿聯邦政府ハ日本政府ニ對シ食糧及衣服ニ對スル待遇
第十一條及第十二條ヲ適用ニ當リテハ實際的簡便ノ理由ニ依リ双方共
停廢ノ並民的人種的習慣ヲ考慮ニ入ルヘキコトヲ茲ニ提議ス
本管南阿聯邦政府ノ提議ニ對スルニ本管日本政府ノ見解御同業再議旁々本
使ハ茲ニ顯下ニ記シ重ネテ敬意ヲ表シ候

(左省寫略)

敬、具

○千九百二十九年七月二十七日ノ停廢ノ待遇ニ關スル國際條約及
赤十字條約條項恪守ニ關シ米國政府申入停廢ニ對スル條
昭和十七年一月二十九日

在 京 瑞 西 國 公 使 宛

東 郷 外 務 大 三

以書翰啓上致候陳者一月二十日附拙信ニ附シ日本帝國政府ノ見解去ノ違

一日本帝國政府ハ千九百二十九年七月二十七日ノ壽府赤十字條約ノ締結
トシテ同條約ヲ嚴重ニ遵守シ居レリ

二日本帝國政府ハ俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年ノ國際條約ヲ批准セ
ス榮ツテ何等同條約ノ拘束ヲ受ケザル次第ナルモ日本ノ國內ニアルーア
メリカ人タル俘虜ニ對シテハ同條約ノ規定ヲ準用スヘシ

本大臣ハ茲ニ重ネテ此下ニ向テ此意ヲ表シ候
敬 具

○「イギリス」、「カナダ」、「オーストリア」及「ニュージー
ランド」各政府ノ千九百二十九年七月二十七日ノ俘虜ノ待遇ニ
關スル國際條約條項遵守ノ聲明ニ關スル件
昭和十七年一月二十九日

東京 外務大臣
在東京「アルゼンティン」前代理大使宛

以書翰啓上致候陳者本月十九日附拙信ニ附シ俘虜ノ待遇ニ關シ日本帝國政

1982

府ノ見解左ノ通願遊藝候條右可然「イギリス」一「カナダ」一「オーストラリア」及「ニュージーランド」各政府ニ御意達相成度此遊藝夜新事ニ候

一、日本帝國政府ハ俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年ノ國際條約ヲ遵シ居ラス從ツテ何等同條約ノ拘束ヲ受ケサル次第ナルモ日本ノ國內ニアル「イギリス」人、「カナダ」人、「オーストラリア」人及「ニュージーランド」人タル俘虜ニ對シテハ同條約ノ規定ヲ準用スヘシ
ニ俘虜ノ被服及食糧ノ補給ニ關シテハ相互條約ノ下ニ俘虜ノ國民的人權的風習ヲ考慮スヘシ
本大臣ハ茲ニ貴下ニ對シ敬意ヲ表シ候

敬具

(發給簿終)

○御旨非職人員ニ對スル俘虜條約準用可否ニ關スル件 (昭一七二六)

陸普七五三

陸軍次官ヨリ外務次官宛回答

一月二十七日附條三普通合第一四九號ヲ以テ照會ニ係ル首題ノ件ニ
ル意見左記ノ通ニ付御了知相成度

左記

一九二九年ノ壽府停廢條約ハ日本ニ對シ何等拘束力ヲ有セサルモ同條約
ノ原則ヲ準用シ得ル範圍ニ於テ海軍非戦闘員ニモ準用スルコトニ異存無
シ但シ本人ノ自由意志ニ反シ勞役ニ服セシサルヲ條件トス